

第2部

第1章

接続期カリキュラムにおける具体的実践事例 ～幼児期の教育と小学校教育のつながりのイメージ～



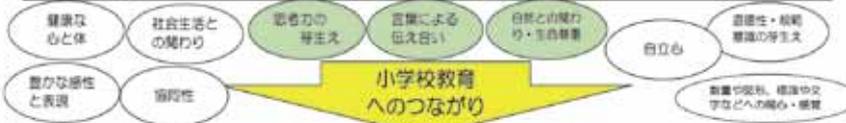
※この章では、幼児期における接続期カリキュラムの実践が小学校教育とどのようにつながるかについて、8の実践事例をあげています。

5歳児 「散歩へいこう（活動名）」（自ら学ぶ力）

時期 4月下旬
 ねらい 春の自然や身近な小動物に興味や関心をもって関わり楽しむ。
 内容 身近な虫や草花に興味をもって遊ぶ。

春を彩る花が咲き、虫もたくさんいる堤防へ出かけることにした。
 A児「てんとう虫って何を食べるの？」
 保育者「何かな？」と、自分たちで考え行動できるようにあえて教えるのをやめた。
 A児「図鑑に書いてあった。」と、教材付録の図鑑に春の虫や花について載っていたことに気が付いた。
 保育者「残念、今日は図鑑がないから今度来たときに持ってこようね。」
 次に、堤防へ出かける前に必要なものはないか話し合うことにした。
 A児「図鑑がいるよ。」C児「花束を作るからリボンが欲しい。」と、それぞれが以前遊んだときに欲しかったものを持って出かけることにした。
 B児「ねえ、てんとう虫って何を食べるの。」
 A児「アブラムシだよ。図鑑に書いてあるよ。」と言って、二人で図鑑を見た後、駆け出して行った。
 その後、二人は園庭でも図鑑をもって虫探しをするようになった。

<身近な自然に興味をもち調べたり試したりする>
 幼児は、身近な事物や出来事、自然などに対して、興味をもち、もっと関わりたいと思う。驚きをもって見つめるといった関わりを通して、親しみを感じ、好きになる。また、生命あるものに対しては、その生命を大切に守り、生命の不思議さなどを突き詰めてみたいといった探究心をもつようになる。この探究心が自ら学ぶ力の土台になる。



国語科

単元・領域 「ほんはともだち」

目 標

- 知りたいことや興味をもったことを調べるために、その事柄について説明した本や文章を進んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- 自分の知りたいことや興味をもったことについて、なぜそうなのか、文章から見付けながら読んでいる。【読むこと】

主な学習活動

- 自分が興味をもった本を選び、おもしろいところや楽しく感じるところを見付けながら読む。
- 読んだ本の気に入ったところをみんなに紹介する。

生活科

単元・領域 大単元「がっこう だいすき」
小単元「こうていを あるいてみよう」

目 標

- 校庭の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりすることを通して、季節や校庭の様子に気付くことができる。
- おもしろいと思ったことや興味をもてるものを見つけ、友達と楽しく学習することを通してこれからの学習に関心をもつことができる。

主な学習活動

- 校庭を歩いてみて、どのような草花や生き物がいるのか、見付ける。
- 校庭で見付けたことなどを教師や友達に話す。

幼児期の教育において育みたい資質・能力は、5領域に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものです。

- 【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】の考え方
- これらの姿が到達すべき目標ではありません。
 - 個別に取り出されて指導されるものではありません。
 - 全ての幼児に同じように見られるものではありません。
 - 5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意しましょう。

ゼロからのスタートではない

5歳児の「散歩へ行こう」の活動は、例えば、このような教科の学びにつながっています。（「散歩へ行こう」→「生活科：がっこうだいすき」だけにつながるわけではありません。）
 このように、幼児期に育まれた資質・能力が、小学校の様々な教科・領域等につながっているという例を示したものです。

5歳児 「散歩へいこう（活動名）」（自ら学ぶ力）

時期	4月下旬
ねらい	春の自然や身近な小動物に興味や関心をもって関わり親しむ。
内容	身近な虫や草花に興味をもって遊ぶ。

春を彩る花が咲き、虫もたくさんいる堤防へ出かけることにした。
 A児「てんとう虫って何を食べるの？」
 保育者「何かな？」と、自分たちで考え行動できるようにあえて教えるのをやめた。
 A児「そうだ、図鑑に書いてあった。」と、教材付録の図鑑に春の虫や花について載っていたことに気が付いた。
 保育者「残念、今日は図鑑がないから今度来るときに持ってこようね。」
 次に、堤防へ出かける前に必要なものはないか話し合うことにした。
 A児「図鑑がいるよ。」C児「花束を作るからリボンが欲しい。」と、それぞれが以前遊んだときに欲しかったものを持って出かけることにした。
 B児「ねえ、てんとう虫って何を食べるの。」
 A児「アブラムシだよ。図鑑に書いてあるよ。」と言って、二人で図鑑を見た後、駆け出して行った。
 その後、二人は園庭でも図鑑をもって虫探しをするようになった。

<身近な自然に興味をもち調べたり試したりする>

幼児は、身近な事物や出来事、自然などに対して、興味をもち、もっと関わりたいと思う。驚きをもって見つめるといった関わりを通して、親しみを感じ、好きになる。また、生命あるものに対しては、その生命を大切に守り、生命の不思議さなどを突き詰めてみたいといった探究心をもつようになる。この探究心が自ら学ぶ力の土台になる。



国語科

単元・領域
「ほんはともだち」

目 標

- ・知りたいことや興味をもったことを調べるために、その事柄について説明した本や文章を進んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・自分の知りたいことや興味をもったことについて、なぜそうなるのか、文章から見付けながら読んでいる。【読むこと】

主な学習活動

- ・自分が興味をもった本を選び、おもしろいところや楽しく感じる場所を見付けながら読む。
- ・読んだ本の気に入ったところをみんなに紹介する。

生活科

単元・領域
大単元「がっこう だいすき」
小単元「こうていを あるいてみよう」

目 標

- ・校庭の草花や虫を観察したり、飼育動物と関わったりすることを通して、季節や校庭の様子に気付くことができる。
- ・おもしろいと思ったことや興味をもてるものを見つけ、友達と楽しく学習することを通してこれからの学習に関心をもつことができる。

主な学習活動

- ・校庭を歩いてみて、どのような草花や生き物がいるのか、見付ける。
- ・校庭で見付けたことなどを教師や友達に話す。

5歳児 「つるぴかだんご作り（活動名）」（自ら学ぶ力）

時 期

6月頃

ね ら い

考えたこと、経験したことをもとにだんご作りを楽しむ。

内 容

楽しんでだんご作りを行い、自分の思いや考えを伝えて遊ぶ。

「先生、今日つるぴかだんご一緒に作れる？」A児が保育者を誘いに来た。

「いいよ。」「やったあ。」他に4人の年中組の幼児も誘って、一緒に作るようになった。

「冒険山に行くよ。はじめにこんな石があるといいんだ。」

そう言ってA児は冒険山の土を掘り始めた。

「硬い土を掘るんだよ。大きい団子を作りたい人は、たくさん掘らないとね。」

「先生は、大きい団子を作りたいなあ。これくらいかな。」

保育者が差し出すと、

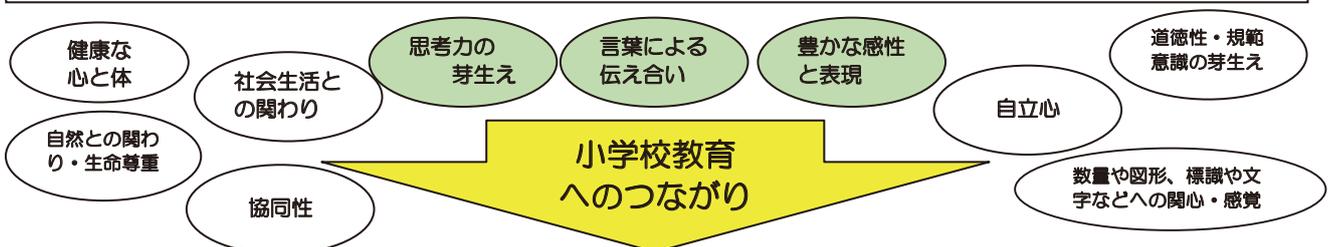
「ちょっと待って。だんごを作る時にごろごろの石があると、でこぼこの団子になるから出さないよね。それから、少し水を入れると固まるよ。」

「丸く固まったらバス乗り場の前に行くよ。あそこが一番。」両手で白粉を山のように集めると、「この白粉を付けてころころ手のひらで転がすんだよ。強く押さえるとひびが入るから気をつけてね。」

失敗しそうになった時も慌てず優しく教えてくれたり、白粉をいっぱい集めると分けてくれたりするなど、言葉巧みに教える姿は自信に満ちあふれていた。

<経験したことを相手に分かるように話す>

生活体験が具体的なイメージとして心の中に豊富に蓄積されていくことが大切である。こういった経験の積み重ねが、言葉を理解し豊かに表現するための土台となる。



生活科

単元・領域

大単元「なつだ あそぼう」

小単元「みずで あそぼう」

目 標

体全体を使って水と戯れたり、水を利用して遊ぶおもちゃを工夫してつくったりしながら、水の性質の不思議さや面白さに気づき、友達と遊びを楽しむことができる。

主な学習活動

- 道具を工夫したり、吹き方を工夫したりしながら、シャボン玉遊びを楽しむ。
- 道具の工夫や吹き方の工夫などを友達と伝え合い、みんなでシャボン玉遊びを楽しむ。

図画工作科

単元・領域

「つちやすなとなかよし」

目 標

砂や土の感触を十分に味わいながら、造形的な活動を思い付き、楽しむ。

主な学習活動

- 体全体で活動することを知り、どのようなことができそうか考え、グループや個人で、材料や用具も使い、思い付いたことを試しながら体全体で活動する。
- 掘ったり、並べたり、積んだりしながら思い付いたことを存分に試し、好きな形やつくりたいものをつくる。

5歳児 「お弁当屋さん（活動名）」（自ら学ぶ力）

時期 11月頃

ねらい 文字や数に興味や関心をもち、遊びの中で取り入れて楽しく遊ぶ。

内容 友だちと役割を決めて、物の売り買いを楽しみながらお弁当屋さんを楽しむ。

「お弁当の中身は、どんな物があるかな。」「お弁当屋さんをするには、何が必要かな。」などとみんなで話し合ってお弁当作りに取り組んだ。弁当箱に入れたい惣菜を作ったり、看板を作ったりお金も作った。早速お買い物ごっこが始まったが、いざこざが発生した。

A児「ぼく、たまごやき買いたかったけど、みんながたくさん買ったから買えなかった。」

B児「だって、みんな同じ物たくさん買うからだよ。」保育者「何かいい方法がないかしら。」

C児「たくさんある物は2個で、少ない物は1個がいいと思う。」

D児「10円で買えるのは、おにぎりとかウインナーが2個で、卵焼きとホットドッグが1個だね。」

E児「野菜はたくさんあるから、3個にしたらいいよ。」と幼児が話し合っで決めた。

保育者は、10円で買える物を絵と文字にして黒板に貼ることにした。

翌日は、10円玉を6個持ちお買い物に行く日である。何が買えるか考えながらお弁当を作り始めた。何度も黒板を見にきては、お店で品物を選ぶ姿があった。

<文字や数に興味・関心をもち>

幼児が文字や数量に興味・関心をもちようになるためには、楽しく活動することを通して、数量や文字に関わる感覚を豊かにできるようにすることが大切である。上記のエピソードのように、絵や文字を使って看板を作ったり、数字を使ってお金を作ったりするなど、活動を楽しむうちに興味・関心がもてるようにしていく。買いたい物が買えないなどの困った場面が生まれたとしても、楽しく活動できるようにするために必要な数量を考えるなど、より数量や文字に関わる感覚を豊かにしていく。



国語科

単元・領域

「どうぞ よろしく」

目 標

- ・友達に知ってもらいたいことを考え、相手に分かりやすいように自己紹介をし合うことができる。(話・聞)
- ・相手によく分かるように、自分の名前などを丁寧に書くことができる。(書、伝国)

主な学習活動

- ・「い・ち・ね・ん」と組や自分の名前を平仮名で書き、名前カードを作る。
- ・できるだけたくさんの友達と挨拶し、名前と好きなものを言って握手し、名前カードを交換する。
- ・友達から聞いたことを、他の仲間を紹介する。

算数科

単元・領域

「10までのかず」

目 標

10までの数の数え方、数字の読み方、書き方等を知るとともに、数の概念について理解することができる。

主な学習活動

- ・一対一の対応をさせながら、絵の上におはじきを置く。
- ・おはじきの数と対応させながら数図ブロックに色を塗る。
- ・数図ブロックに合わせて数字を書き唱える。
- ・1から10までの数の大小を比べる。

5歳児 「ドッジボール遊び（活動名）」（人と関わる力）

時 期

10月

ね ら い

ルールや勝敗の意味が分かり、互いに力を合わせて運動遊びを楽しむ。

内 容

体を思いきり動かし、進んで運動しようとする。

運動会を終え、仲間と力を合わせて競い合う遊びに関心を向けていた。その日は、クラスで黄色チームとピンクチームに分かれて、ドッジボールの試合が始まった。

1回戦終了後、黄色チーム11人、ピンクチーム14人がコートに残った。大きな声で口を揃えて数え合った。負けた黄色チームは、悔しがり落胆していた。

「作戦タイムにしよう。」と保育者が声をかけると、円陣を組んで互いに作戦の練り合いが始まった。

黄色チームのA児は、「こうやって高くボールを投げて外にいる子に渡して、外の子が当てると中に入れるよ。」と地面にコートを書きみんなに説明をいただいた。それに続いて、

B児「後ろを向いているうちにボールを投げると当てられるよ。」

C児「投げてきたら、しっかりボールをキャッチしてとるといいよ。」

と、自然に話し合いが始まった。

2回戦は、黄色チームが積極的にボールに向かっていく姿があった。その表情はどの子ども真剣そのものであった。その結果、黄色チームは勝つことができ、幼児は「やったあ。」と体いっぱい喜びを表現していた。

<友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう>

幼児が試行錯誤しながら考えを巡らせていく時間を十分与え、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを聞いたりしながら、勝ちたいという願いをみんなと共有し、友達と協力して遊ぶ楽しさを感じさせることが大切である。自分も友達も生き生きするような関係性を築いていきたい。



体育科

単元・領域

「ボールゲーム」

目 標

運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたりすることができる。また、簡単なきまりを工夫したり、攻め方を決めたりすることができる。

主な学習活動

- ・ボールを転がしたり投げたりして、ドッジボールをする。
- ・簡単なきまりを作って攻守を決め、集団で競争しながらのあてゲームをする。
- ・攻めと守りを交代しながら、ゴールにボールを投げ入れたり蹴り入れたりして、ゲームをする。

特別活動

単元・領域

「かかりをきめよう」

目 標

学級の生活を充実、向上させるために、必要とされる学級内の組織づくりや仕事の分担をし、互いに協力していこうとすることができる。

主な学習活動

- ・幼稚園や保育園等で行っていた係活動をもとにして、自分たちの学級にどのような係が必要か考える。
- ・みんなで話し合って一人一役の係を決める。
- ・自分の係は、みんなのためにどのようなことをすることができるか考え、実際にやってみる。

5歳児 「しっぽとり遊び（活動名）」（人と関わる力）

時 期

11月下旬

ね ら い

友だちと一緒に思いきり体を動かし、ルールある遊びを楽しむ。

内 容

友だちや保育者と自分の思いを伝え合いながらルールある遊びをする。

5人の仲間と保育者がしっぽとりをして遊ぶことになる。

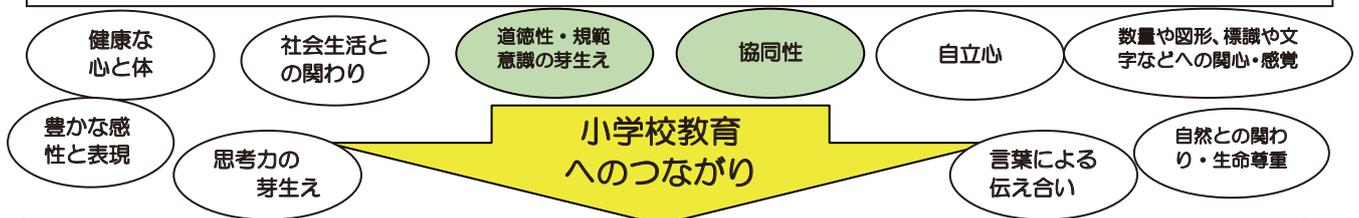
A男は、必死に逃げたり座り込んだりして、しっぽを取られないようにしていたが、A男のチームが負けてしまった。勝敗が決まった時は、悔しそうな表情を見せながら、「負けたっていいもん。」と悔しさを隠し切れずにいた。

2回戦が始まると、A男はしっぽをズボンの中にしまい始めた。他の子にも隠すよう促すため、相手チームは取ることができず、A男のチームが勝った。

すると、相手チームのB男が「だって、A男くんのしっぽないもん。取れるわけないやん。」「面白くないし。」と、A男たちに自分の思いを訴えた。保育者も遊んでいて楽しくなかったことを伝え、楽しい遊びにするにはどうすればよいかをみんなで話し合った。A男は、不満そうな表情を浮かべながらも、しっぽとりのルールは理解していたので、しっぽをズボンから出して3回戦に参加した。

<折り返いをつけ、自分の気持ちを調整する>

幼児は、自分の思いを抑えられずにルールを守れなかったり、自分勝手にルールを変えてしまったりすることがある。ルールを守らなかったために起こった問題に気付かせ、ルールの必要性を幼児なりに理解できるようにし、理解した上で守ろうとする気持ちをもたせることが大切である。集団生活や友だちとの遊びを通して、楽しく生活するためにはルールがあることに気付き、それにしたがって自分を抑制するなどの自己統制力を徐々に身に付けていく。



特別活動

単元・領域

「やすみじかんのすごしかた」

目 標

学級のみんが安心して休み時間を過ごすためのルールを考え、決めることができる。

主な学習活動

- ・休み時間を過ごしていて、困ったことはないか話し合う。
- ・みんなが安心して休み時間を過ごすためにどのようなルールがあるとよいかを話し合う。
- ・みんなで確認した休み時間のルールを掲示物にして掲げる。

特別の教科 道徳

単元・領域

C12 規則の尊重
資料名「きいろいベンチ」

目 標

みんなが使う物を大切に使う態度を養う。

主な学習活動

- ・何が問題になっているかを話し合う。
- ・汚れたスカートの泥をはらうおばあさんになりきって気持ちを発表する。
- ・みんなで使うものや場所はどのように使ったらよいかを話し合う。

5歳児 「劇遊び」(人と関わる力)

時期

3月

ねらい

仲間と協力し合って活動に取り組む。

内容

仲間と話し合ったり、役割を分担したりして目的に向かって活動することを楽しむ。

『3匹のヤギのガラガラドン』という絵本の話をもとに大きな絵を描き、秋のお店やさんごっこで映画に見立てて楽しんだ。幼児の興味が高まったので、映画で楽しんだ『3匹のヤギのガラガラドン』を今度は生活発表会で演じることにした。

音響、道具作り、配役は全員ができるように3つのグループを作り、どの役割もローテーションしながらみんなが楽しめるようにした。音響は、その場面の情景や雰囲気に合わせてリズムや打ち方を考え、シンバル、大太鼓、タンブリンなどの楽器を使って表現した。場面の雰囲気に合わないと、

「そこ、もっと大きなどーん！っていう音のほうがいいよ。」

「じゃあ、トロルが出てくるときは全部同じリズムにしたほうがいいんじゃない？」

「でも、最後に戦うところだけは、違うほうがいいと思う。」

など幼児同士で意見を出し合い変えていった。台詞では、

「ガラガラドンが怖がっている時は、もっと小さい声がいいと思う。」

「トロルは怖いんだから、ゆっくり大きなお父さんみたいな声がいいと思う。」

「Aくんのトロルの声、すごく怖そうやった！」

「じゃあ、真似してやってみる！」

など、表現についても意見が交わされ、考え直し変えていく姿や友達を認めほめる姿が見られた。発表会当日、幼児の迫真の演技や考え抜いた演出にたくさんの拍手が送られた。一人一人の力が大きな力となって成し遂げ幼児は達成感に満ちていた。

<共通の目的に向かって力をあわせる>

幼児が互いの良さを生かしながら活動したり、遊んだりするようになるためには、共通の目的が生まれてくる過程や、試行錯誤しながら一緒に進めていく過程、いざこざなどの葛藤体験を乗り越えていく過程を大切にしていけることが重要である。



音楽科

単元・領域

「うたで なかよしに なるう」

目 標

- ・友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする楽しさを感じ取りながら、音楽への興味や関心をもつ。

主な学習活動

- ・友だちと一緒に歌い方や体の動きを工夫しながら、音楽に合わせて歌ったり遊んだりする。
- ・曲に登場する動物や花の様子を思い浮かべ、歌詞の内容に合った歌い方や体の動きの工夫を生かして遊ぶ。

特別活動

単元・領域

「おたんじょうびしゅうかいをしよう」

目 標

誕生者と一緒に楽しむ集会の遊びはどのような遊びがあるのか話し合い、グループで協力して準備をすることができる。

主な学習活動

- ・これまでの遊びの中で、楽しかった遊びはどのような遊びだったか話し合う。
- ・誕生者が喜ぶにはどのような工夫をすればいいのか話し合う。
- ・グループで遊びのルールなどを考え、決める。

5歳児 「当番活動」(生活する力)

時期 6月下旬

ねらい 生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

内容 自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。

給食配膳やテーブル拭きなどの当番活動を各班の代表者でしていたが、仲のよい友達同士で協力することを願い、班ごとに輪番で担当することにした。

ある日、班内で仕事を分担して取り組み、早く終えたA児とB児が着席して待っていた時、A児「ねえ Cちゃんがまだやってるよ。」

B児「うん。助けにいいかな。」と話し、まだ配膳をしているC児の仕事を手伝い始めた。

手伝ってもらったC児はうれしそうにお礼を言った。保育者はその様子を他児に伝え、自分の役割である仕事に責任をもち、やり遂げることはもちろん、班内で助け合うことも大切だと学級全員で話し合った。

その後の当番活動では自分の仕事を終わると「お助けマン」と言い合い、互いに手伝うようになった。

<友達と一緒に生活をする中で、互いに協力し合う>

他の幼児と関わりながら生活をする楽しさや充実感を通して、自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気付く。また、単に友達と一緒に活動することにとどまらず、幼児同士が目的を共有し力を合わせることで、自分も他の幼児も生き生きとするような関係性を築いていくことになる。



特別活動

単元・領域

「かかりかつどうをもっとよくしよう」

目 標

係の仕事でできたことを振り返り、友達と一緒に活動するともっと楽しくなることに気づき、友達と一緒にできそうなことを考え、どのように手伝うのか決めることができる。

主な学習活動

- ・係の仕事を「ふりかえりかあと」で振り返る。
- ・忘れずにできたこと、最後までできたこと、友達と一緒にできたこと、などを発表する。
- ・一緒にできそうなことを考え、どう手伝うのか決める。

特別の教科 道徳

単元・領域

B9 友情、信頼
資料名「二わのことり」

目 標

友達と一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを想起することで、友達と仲良くする態度を育む。

主な学習活動

- ・友達にしてもらってうれしかったことを発表する。
- ・一度はうぐいすの家に行くものの、さびしい思いをしているであろうやまがらのことを考えてみそさざいがこっそり抜け出す時の気持ちを役割演技する。
- ・今までに困っている友達を助けたことやその時の気持ちを発表する。

5歳児 「てつぼう あきらめない」(生活する力)

時 期

1 2月

ね ら い

自分の目標に向かって、最後まであきらめずに頑張る気持ちをもつ。

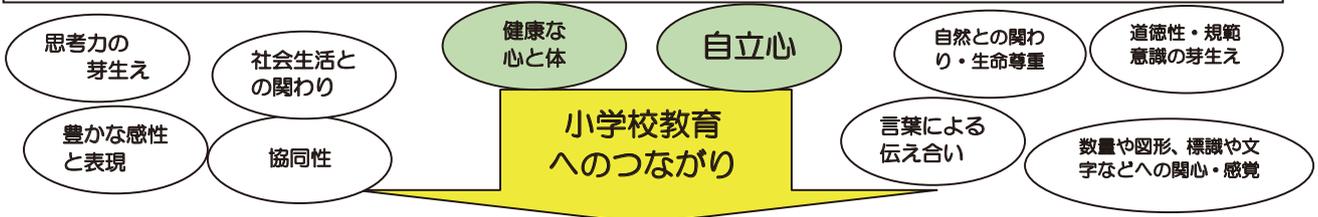
内 容

自分なりの課題をもって、今までできなかったことに挑戦する。

“逆上がりができるようになりたい” A児は、鉄棒の前に行くと、ぐっと鉄棒を握り逆上がりに挑戦。「あー、できん・・もーっ!!」また挑戦するが失敗。これを何度も繰り返しているA児であるが、ふと隣で、逆上がりをいとも簡単にするB児の姿を目にした。
 A児「ね、Bくん、どうして逆上がりできるの? 僕何回やってもできんもん・・」
 B児「僕だって最初はできんかったよ。あのね、手をぐっと曲げておへそを鉄棒に近づけるようにするといいよ。腕が真っすぐになったらいいかんよ。ぼく、見とったる。」
 B児のアドバイスをもらい再び挑戦するが、できるようにはならなかった。それでもあきらめることはなく、毎日鉄棒のところにきては、逆上がりに挑戦した。ある日、
 B児「先生、Aくんだいぶ足が上に上がるようになってきたんやよ。あとちょっとなんや。」
 保育者「そうなの? Aくん、ほんとにがんばってるよね。できるといいな。」「Aくん、がんばって!!」
 毎日の積み重ねは着実に成果となって表れ、蹴り上げた足がとうとう真上にまできた。そして次の挑戦で、蹴り上げた足は戻ることなく1回転し着地した。
 A児「やったー!! できた!!」 B児「やったー!! みんな~Aくん逆上がりできたよ!」
 A児とB児は飛び上がって喜んだ。その日の降園後、一目散に鉄棒に向かい、逆上がりを母親に見せていたA児は満面の笑みを浮かべていた。

<繰り返し挑戦する>

自分なりの課題を見出し、それを乗り越えていくことで充実感や満足感を味わうことができる。取組の過程での葛藤や挫折などの体験を通して、幼児の「やり遂げたい」、「できるようになりたい」という気持ちを受け止め、励ます保育者や友達の支えが『あきらめず繰り返し挑戦する気持ちもてる環境』となる。



体育

単元・領域

「ゆうぐであそぼう」

目 標

ジャングルジムやうんていを使って、上り下り渡り歩きなどをして、遊ぶことができるようにする。また、順番や決まりを守り、安全に注意して楽しく遊べる仲間になる。

主な学習活動

- ・遊具で遊ぶときの約束を確認する。
- ・順番を守って遊ぶ。
- ・好きな遊具で遊ぶ(一緒に遊ぼう、競争しよう)。

特別の教科 道徳

単元・領域

A5 希望と勇気、努力と強い意志
資料名「一にち十ぶん」

目 標

苦手なこともあきらめることなく、続けてがんばろうとする態度を育む。

主な学習活動

- ・主人公のできない気持ちに共感する。
- ・続けてがんばってできた気持ちを話し合う。
- ・がんばりたいことを発表し合う。